

名大の時間

葛藤と決断

先頭に立った方がより輝けると思う」この一言で、私は名寄市立大学への進学を決めた。

当時の私は、関東の私立大学への進学を考えていた。しかし、両親の意向とは異なり、進学先を決めかねていた。そのような時、ある先生が高校を訪れた私に掛けた言葉だ。

「あなたは、大勢の中の一人になるのではなく、少数の中で

員長を務めてきた。

コロナ禍における学生生活が制限される中での活動であったが「今、何が求められているのか」と常に模索していた。そして、様々な方々の協力によって、一昨年は名大花火大会、昨年にはオンライン大

学祭の開催が実現した。また、学生自治会のインスタグラムを開設し、2020年5月末から7月末頃まで新生が抱える

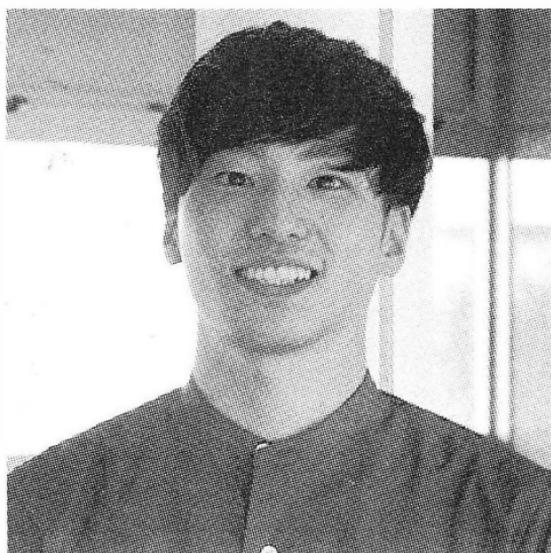
大学や名寄での生活への悩みや疑問を募り、毎日欠かさず回答した。

誰もが不安な今だからこそ、動きたかった。今思うと、これらが本当に求められていたのか考えることがある。当時、少数ではあったが、反対

の声も上がっていた。しかし、それ以上に賛同の声が多く、実現に至ることができた。これまで「人と同

じこと」はしたくないと考えてきた。それは、奇を衒った行動をしたという訳ではない。自分自身が「面白い」「やりたい」「必要」などと考えることが、周りには理解されず、否定的にみられることがある。

しかし、考えに至った経緯や理由を説明すると、理解してくれることがほとんどだ。「他人と違う」ということは、不安を伴うものであるが、大事な感覚のよ



のか検討することは必要であるが、私は「これが普通である」と考え、選択することとはしたくないのだ。

名大での4年間は、自分の興味関心を大事にしてきた。

それが大学生活の原動力となっていたようにも思う。今後、協調性を持ちながら、自分の軸はぶれることなくいきたい。

社会福祉学科4年 中田祥文